



休校中に読書はできましたか？(*'▽')課題に追われてあまり読書ができなかったという人は、ぜひこれからたくさんの本を読んでみてください(^^♪今回は、3年生の図書委員が1・2年生のみなさんへ「高校時代に読んでおきたい本」を紹介しますので、ぜひ参考にどうぞ♪

✿高校時代に読んでおきたい本～先輩から後輩へ～✿

1)『フォルトゥナの瞳』 百田 尚樹【著】 (新潮社)



おすすめの理由

フォルトゥナとは[fortune]の語源となったローマ神話の運命を司る女神の名前です。主人公の目は人の死を予見する能力があるので、作中で「フォルトゥナの瞳」と呼ばれています。百田さんと言えば「永遠の0」で有名ですが、去年映画化されたこちらの作品もぜひおすすめです。

2)『2.43』 壁井 ユカコ【著】 (集英社)



おすすめの理由

自分自身がバレーボール経験者で、今、バレー部のマネージャーをしているので親近感があって読み始めた。中学の大会でのトラウマを乗り越え、高校でバレーボールを続ける主人公の姿や、仲間とのぶつかり、そこからできる絆などが描かれ、バレーボールを通して主人公だけでなく部員全員の成長する姿に心をひかれました。シリーズ3,4作目の代表決定戦編では臨場感溢れる表現でその会場にいるかのような気持ちになりました。これぞ高校生の部活の青春！って感じです。バレーボールをしている人はもちろん、そうでない人も絶対楽しめる作品です！

※こちらは図書館で購入予定なので、お楽しみに(^^)/

3)『ブロードキャスト』 湊 かなえ【著】 (KADOKAWA)



おすすめの理由

「イヤミス(後味が悪く、モヤモヤした気持ちで終わるミステリー作品)の女王」と呼ばれる湊さんですが、この本は湊さん初の青春小説となっています。主人公が高校生で、部活についてのお話なので、とても読みやすい作品です。

4)『君の臍臓をたべたい』 住野 よる【著】 (双葉社)



おすすめの理由

主人公である高校生の僕が偶然拾った一冊の本をきっかけに始まる青春ストーリーです。その本には余命わずかクラスメイトの「死ぬまでにやりたいこと」が書かれており、それを一緒に経験して、2人がだんだん心を通わせ成長し、涙が出るほど感動できる作品です。

***これらの本は図書館にありますので、興味がある人はぜひ図書館まで！！**



◇新任の先生方のおすすめの本◇



①

『日本の文字～「無声の思考」の封印を解く～』
石川 九楊【著】 (筑摩書房)

<おすすめポイント>

筆者は、鬼才の書家である石川九楊先生。文字を通して、日本とは何かという問いの核心に、大胆に迫っていく興味深い内容になっております。九楊先生が書した、独特すぎる直筆サインや面白エピソード等…授業でも紹介していきますね！



②

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』
伊藤 亜紗【著】 (光文社)

<おすすめポイント>

普段私たちが一番頼っている「視覚」を取り除いてみると、世界の捉え方はどうなるか、考えたことがあるでしょうか。この本は、新たなものの見方、捉え方を与えてくれます。



《新着図書案内》

1何年経っても読みたいあの名作！

文庫の本棚の整理をして、古くなったたくさんの名作を今年度、きれいで新しいものに買いかえました☆休校中にたくさん入りましたので、ぜひ図書館まで借りに来てください(^)/今回はその中の1冊を紹介します(*'▽')

『坊っちゃん』 夏目 漱石【著】 (小学館)



親譲りの無鉄砲で小供のころから損ばかりして居る。曲がったことが大嫌いな坊っちゃんは、幼いころから喧嘩やいたすらを繰り返して、家族にすとうとまれてきた。心配してくれるのは下女の清だけだ。物理学校を卒業し、四国の中学に数学教師の職を得るが、性格の変わらうわけがない。偉かろうが強かろうが、長いものに巻かれて生きてゆくわけにはいかないのだ。

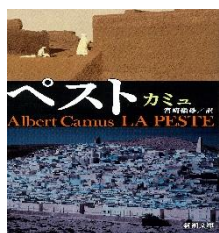
♪その他の名作♪

一夢庵風流記(隆慶一郎)、落日燃ゆ(城山三郎)、螢川・真夏の犬・星々の悲しみ(宮本輝)、ヴィヨンの妻・斜陽・バンドラの匣・ろまん燈籠・津軽(太宰治)、海と毒薬・王妃マリー=アントワネット(遠藤周作) など多数

2感染症関係の小説！

現在、新型コロナウイルスが蔓延しているため、感染症関係の小説がとても話題となっています！(くれぐれもコロナウイルスには気を付けてくださいね!!)今回は、その中で今とても話題の作品を紹介します(^♪

『ペスト』 カミュ【著】/宮崎 嶺雄【訳】 (新潮社)



アルジェリアのオラン市で、ある朝、医師のリウーは鼠の死体いくつかを発見する。ついで原因不明の熱病者が続出、ペストの発生である。外部と遮断された孤立状態のなかで、必死に「悪」と闘う市民たちの姿を年代記風に淡々と描くことで、人間性を蝕む「不条理」と直面した時に示される人間の諸相や、過ぎ去ったばかりの対ナチス闘争での体験を寓意的に描き込み圧倒的共感を呼んだ長編。

その他の感染症関係の小説

- ・首都感染 (高嶋哲夫)
- ・復活の日 (小松左京)